

令和2年度 学校評価シート（自己評価）

菩提樹の森 幼稚園

1、園の教育目標

仏教の大慈大悲の教えを基本に、学校教育法及び幼稚園教育要領に則り、幼児の心身の健全な発達の助長をめざす。

- 人をたいせつにする子…生命（いのち）を尊重し、正しきを見て絶えず進む子どもを育てる。
- すすんで行動する子 …ものごとを自主的、創造的に考えていく子どもを育てる。
- 健康で朗らかな子 …心身ともに健康で、何事も最後までやり遂げる子どもを育てる。

2、具体的な目標や計画

新幼稚園教育要領の施行から4年が経過した。今年度も評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、園長はじめ幼稚園教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の振り返りや改善、施設環境の改善、地域の中の幼稚園としていかなる存在かを客観的に観て、主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- ・教育課程指導分野…幼稚園の教育の根幹となるため、評価項目に選定。
- ・教育目標保護者連携…子どもの健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため、評価項目として選定
- ・保健管理分野…園児の健康管理は重要であり評価項目に選定。
- ・教育環境整備分野…子どもが遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため、評価項目に選定。
- ・預かり保育…コロナ禍に於いて、長時間の預かり保育の対応について、また、どのように子どもたちを受け入れることができるかは重要であるため評価項目に選定。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
教育課程指導分野 仏教保育の理念のもと、園児一人ひとりが何事においても意欲的に取組めるように援助し、自律的な精神を養う。環境（人的・物的）を通しての保育を実践する	A	<ul style="list-style-type: none">・先生は、園児一人ひとりを大事に守り育てていく仏教保育を実践し、園児のあるがままの姿を受け止め、愛情をもって関わっている。・先生は、園児同士が互いに個性や多様性を認め合い、共に育つことができるよう、働きかけている。・先生は、園児が主体的に、喜びをもって遊び、充実感や達成感を味わえるよう に援助している・先生は朝の活動の中で、唱歌をとおして挨拶、合掌礼拝し、お祈りから一日を始めている。共に祈る中からも、仏教保育教育の共通理解につながる願いが 込められている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回の礼拝や三仏忌などの行事を通して、宗教情操教育の中で、何かに見守られていることを感じ、仏教保育について理解を深めてもらう機会を設けている。
<p>○教育目標保護者連携</p> <p>園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願い、家庭との連携を図る。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時、保護者が子どもを送迎するので、教員と保護者が顔を合わすことができる。その際、家庭での様子を聞いたり、園での子どもの様子を伝えたりしている。時には、園生活を送る上での悩み、子育て相談などを受け、共に話し合っている。バス通園の保護者には電話やお手紙などで子どもの様子について伝えている。 ・動画配信、zoom 個人面談、クラス懇談会を行い、園児一人ひとりについて話し合い、方向性（願う育ち、援助方法など）を互いに模索している。 ・コロナ禍ですが可能な限り参観日（運動会・発表会・作品展等）を設け、子どもの日頃の姿を見てもらっている。
<p>○保健管理分野</p> <p>園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園児健康/家庭調査票（毎年度、保護者が記述）にて、園児一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握している。特に身体的・精神的特徴を持った園児（痙攣、心臓病、発達障害、アレルギーショック症状等）については、全教員が会議等で定期的に成長や課題について話し合い、必要な対応や援助について共通理解している。 ・園児の健康状態については、教員が登園時に視診を行うと共に、保護者からも随時話を聞いている。 ・保育中は、園児の体調の変化に目を配り、検温、保護者に連絡等の対応をとっている。場合によっては、園医の指示を仰いでいる。また、降園時、帰宅後も保護者と連絡を取り、園児の健康状態を把握している。 ・新型コロナウイルス感染予防につとめ注意喚起を行っている。 ・特定の伝染病に罹った園児に対しては、医療機関で診断を受けた上で、保護者に 登園許可証の提出を義務づけている。それ以外でも、体調面で保護者が登園の判断をしかねる場合、かかりつけ医や園医に相談した上で、受け入れを行っている。 ・教員はアレルギーショック症状の緊急対処法を救急法講習（AED、CPR、エピペン使用法）を毎年受講している。
<p>○教育環境整備分野</p>	A	

<p>施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行い、子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。保育者の教育、研究のための環境の充実を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物環境の充実を図るために、季節ごとにプランターやキュウリ、トマト、なす、オクラなどの夏野菜の栽培を行った。 ・園舎入り口の生き物コーナーの生き物の世話、セキセイインコの飼育を行い、子どもの生き物に対する興味関心が育まれるよう環境を整えた。 ・毎日、登園前に教員が安全確認(施設整備、遊具等の点検など)、園児を迎え入れる為の準備(保育室環境、清掃など)を行う。また、保育後は教員で保育室、廊下、手すり、園庭等の清掃・消毒作業をしている。 ・園庭、グラウンド、境内の掃除を毎日行っている。 ・自然災害が起こる事が予想される場合には、事前に対応策を講じ、被害を最小にとどめるように努めている。また、災害発生時には、園児が安全に過ごせるように復旧作業を行い、園舎・園庭の安全確認を行ったうえで園児を迎え入れている。 ・ピアノ調律、ポータブルスピーカー4台を購入し教育環境を整えた。 ・コロナ対応の為、アルコール手指消毒剤、飛沫アクリル板、24時間換気徹底など行った。 ・遊具・設備は随時修繕を行っている(ロープ、木製FRP遊具、保育室の天井、扇風機、エアコン、お手洗い・保育室の扉の緩み、トイレメンテナンス)。また、適宜、それらの保守点検も行っている(空気清浄機、冷蔵庫、AEDなど)。 ・教職員が、日頃から樹木の剪定や草の刈り取り、防虫剤散布をしている。高所は専門家高橋造園に依頼。 ・保育の充実を図るために隣地を購入。次年度にむけて大型遊具導入園庭整備を検討。
<p>○預かり保育分野 保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により、令和2年度4月5月が休園となった。前例のない対応の為、慎重に6月から幼稚園を再開。預かり保育の受け入れは長時間になるため、原則新2号認定の園児のみ受け入れることとなった。10人～20人の受入れ状況で推移し、預かり保育室内の三密は回避できていた。 ・ご家庭の事情により、1号認定の園児の預かりも相談があった方には柔軟に対応した。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	今年度はいつも通りのスタートではなかったが、無事に一年間のまとめを行うことができた。2か月の遅れをどうしていくか考えながらも、焦らず子どもひとりひとりのペースを見極め丁寧に保育を進めてきた。年度末近くでは子どもたちが進んで挨拶をする姿が見られ、子どもたちに身に付いてきている。前年に引き続き、担任、教職員とも子どもと丁寧に関わり、園全体で子どもの育ちを見守ってきた。個々に声掛けや対応を行い、クラスの保育がスムーズに進められるようにしてきた。コロナ禍において、これからも保護者との共通理解を大切にしていきたいと思う。幼稚園教諭は色々な遊びを提供したり、自由遊びの時に子ども一人ひとりとの関わりを大事にすることが大切だと思う。子どもの好きな遊びを一緒に共有する事により、子どもとの信頼関係を築く事ができた。また、コロナ禍においても、保護者とのコミュニケーションを何らかの形で取り続け、今できることを模索しながら取り組んだ。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
行事を運営するにあたって、前年度の反省や改善点をどの様に活かしていくか	行事の在り方を教職員で話し合い具体的な取り組みを考えていく。行事毎に反省会を行っているが、各クラスの感想になりがちなので、来年に繋げる会議を行っている。特にコロナ禍において、感染症対策を取りながら、保護者と子どもたちの育ちをいかに共有していくかが課題である。また、前年度を踏襲することなく、様々な研修に参加し、研修内容を幼稚園にいかにかフィードバックするかが課題である。担当者会議、職員会議、主任会議、反省会などは議事録に残し、次年度に正しく引き継ぎができるようにする。
施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行い、子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化の見られる、積み木などの小型遊具から大型遊具まで、施設整備の安全、維持管理、点検、拡充を行う。木材で作られた遊具は経年劣化が伴うが、温もりがあり、本園の自然環境に溶け込むものである。次年度の70周年に向けて遊具の選定、園庭開発について計画し研究する。 ・遊具・教材の充実・教材研究のあり方について見直す（玩具の多様な遊び方や使い方について）。 ・子どもの遊ぶ姿を振り返り、よりよい援助の方法を話し合う。 ・新たな教材の情報を収集しつつ、必要性を見極めて取り入れる。

<p>仏教保育の理念のもと、園児一人ひとりが何事においても意欲的に取組めるように援助し、自律的な精神を養う。環境（人的・物的）を通しての保育を実践する</p>	<ul style="list-style-type: none">・教職員一人ひとりの保育の専門性を高める。・教育課程の共通理解を教員間で深めるために、保育後のコミュニケーションの在り方や報連相の在り方について問題提起する。・外部からの講師を招聘し、知識や理解を深める。・教員間で日々の実践を省察し、具体的な援助の手立てを考え合う。・各自が研修会、研究会への参加を積極的に行い、研修研究内容のフィードバックの方法を検討する。
---	---

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 令和3年5月11日（火）

10:00～11:00（時間）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

・教育課程指導分野…

誰に対しても親しみを持って、仲良く、優しく接する子どもたちの姿から、仏教保育の成果が伺えます

・教育目標保護者連携…

個々の子どもの実態に配慮された物的、人的環境の設定が工夫されていることで、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい保育がなされていることがわかります。コロナ禍でも工夫して行事を行っていることがうかがえる。

・保健管理分野…

毎朝登園時に保護者と園児の健康状態、その他様々な話ができることが保健管理上非常に有効でありアプリを活用した健康観察も有効である。また、登園後も、保護者と連絡を密に行うよう努めています。

・教育環境整備分野…

施設、設備については日々教職員が点検を行い、随時修理等が行われるように努めています。また、感染症対策のために備品教材の充実にも努めています。

・預かり保育…

保護者の要望に柔軟に対応し、また子どもの育ちも共有できるよう工夫している様子がうかがえる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であった

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切に設定されている

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

今後の取り組むべき課題は適切に行われている